

受験番号	
------	--

平成31年度大阪府・大阪市・堺市・豊能地区公立学校教員採用選考テスト

中学校 美術 解答用紙 (3枚のうち1)

3

得点	
----	--

(1)	岡本 太郎	/	
(2)	(作品A) 太陽の塔	/	
	(作品B) 明日の神話	/	
(3)	(作品A) ア	(作品C) オ	/
(4)	この作品は、冷戦中に制作されたもの。画面中央に象徴的に表されているのは、核兵器による爆発で炸裂する人体。画面右下には、1954年にビキニ環礁の水爆実験に巻き込まれ被爆したマグロ漁船「第五福竜丸」、画面左には平和な世界で憩う人々の姿が描かれている。岡本太郎は、いつ核兵器がさくれつしてもおかしくなかった当時の人類の状況を画面中央に描き、そこに至った人類の過去の罪業と、それを乗り越えて未来へと生き抜く人類のたくましさへの期待を描いた。		/
(5)	(作者名) パブロ・ピカソ (ピカソ)	/	
	(作品名) ゲルニカ	/	
(6)	(名称) キュビズム	/	
	(内容) 対象を複数の角度から幾何学的に分解し、再構成する技法を創出した美術運動。	/	
(7)	1937年、スペインの内戦のおりに、小さな村ゲルニカが、ナチス・ドイツ空軍の無差別爆撃を受けて、女、子どもも含む多くの犠牲者をだした。これを聞いたピカソは、万国博覧会のための作品を、戦争の悲惨さを人々に訴えるための作品として、わずか1か月あまりで描きかえた。これは、ピカソによる激しい抗議である。		/

--

受験番号	
------	--

平成31年度大阪府・大阪市・堺市・豊能地区公立学校教員採用選考テスト

中学校 美術 解答用紙 (3枚のうち2)

4	得点	
---	----	--

(1)

題材名	絵画 「ありえない世界」
題材の目標	「ありえない世界」を表現することに興味をもち、自己の内面を深く見つめて考えて、主題を生み出す。主題を造形的な効果を生かし創造的に表現するとともに、他者の作品から作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わう。

(2)

題材の評価規準	観点	美術への関心・意欲・態度	/	
	表現			
	「ありえない世界」というテーマを基に、自己の内面を表現することに関心をもち、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり材料や用具の特性を生かしたりしようとしている。			
	鑑賞			
	他者の作品に関心をもち、主体的に見方や感じ方を広げようとしている			/
	観点	発想や構想の能力	/	
	「ありえない世界」というテーマを基に、感性や想像力を働かせて、自己の内面を深く見つめ感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出し、全体と部分との関係、などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。			/
	観点	創造的な技能	/	
感性や造形感覚などを働かせて、材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを考えながら見通しをもって創造的に表現している。			/	
観点	鑑賞の能力	/		
感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わっている。			/	

受験番号

平成31年度大阪府・大阪市・堺市・豊能地区公立学校教員採用選考テスト

中学校 美術 解答用紙 (3枚のうち3)

(3)

時	学習活動および内容	
第1時 ～2時	課題の把握と 発想・構想	<p>○「ありえない世界」を表現することを理解し、課題への関心を高める。</p> <ul style="list-style-type: none">・「ありえない世界」の一例として、マグリットの作品やダリの作品を、題名を示さず全体に示す。・作品の題名について個人で考え、感じ取ったことや考えたことをワークシートに記入する。・作品の題名、作者の心情や意図と表現の工夫について紹介するとともに、生徒との対話の中で、主題と表現の工夫を関連させて捉えることを示す。・ワークシートを用い、グループで改めて同じ作品を対話的に鑑賞する。作者の主題と表現の意図について作品から感じとったことや気づいたことを説明し合い、見方や感じ方を広げる。 <p>○自己の内面を見つめ、表現する主題を生み出す。</p> <ul style="list-style-type: none">・ワークシートを用い、自分が考える「ありえない世界」について、感じ取ったことや考えたことを基に、アイデアスケッチをして主題を生成する。 <p>○主題を基に構想を練る。</p> <ul style="list-style-type: none">・ワークシートを用い、主題のイメージに合わせて、形や色彩、材料などの様々な組み合わせ方を追及して表現の構想を練る。

(4)

「努力を要する」状況と判断した生徒の具体的な状況
課題を把握することが難しい。主題を生み出すことが難しい。

「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て
課題の把握については個別に再度説明する機会を設けるとともに、作品例などを示して視覚的にも理解しやすいようにする。主題については、アイデアスケッチだけでなく、材料体験をしたり、作品を鑑賞することから主題を見つけ出せる生徒もいることを考慮し、生徒の個性を踏まえて、主題を生み出していく過程を重視して指導する。